

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	逝く春の歌（歌）：文苑
Author(s)	下林，一之
Citation	龍南會雜誌， 1 4 6： 7 6 - 7 6
Issue date	1912-06-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6377
Right	

旅に出で、雨よひ空の川床に群るゝ鴉の羽音を聞きぬ
歌はんと思ひし男何時迄も歌はで人をいたくいらだつ
阿蘇の山小雨降る日は遠くより静寂の野を底鳴り渡る
黄色なる阿蘇の裾野に立つ人を烟の影の静かににる

逝く春の歌

は
じ
め

舷によりて霞の中に違がなるなづかしの人の家みる心
小雨ふるたぼろ月夜の大公孫樹もの思ふ子を夜鳥のなく
眠られずに家傳の藥つく槌の音聞きく夜半を春の雨ふる
「目よなごてひなげしこのむ」その花の紅なるがやがてしほめば」
春の夜の湯殿にけふるランプをばうるはしと見て瀨の音を聞く
蕨狩の歸さにふとも瀧見にと球磨川べりの林わけゆく

熱 涙

なほ熱き涙ながれぬ只茫と春の最中の帳のうちに

し
づ
か